

第3回 福岡県環境審議会 環境総合ビジョン専門委員会 議事要旨

1. 開会

環境政策課長あいさつ

2. 議事

(1) 骨子案及び素案について

【事務局】

資料 1-1、1-2、1-3 をもとに概要説明

【馬奈木俊介委員】

国連の「Beyond GDP (GDP を超えた指標)」ハイレベル専門家グループ (HLEG) は、「Counting What Counts: A Compass of Progress for People and Planet (真に価値あるものを測る：人々と地球の進歩のための羅針盤)」を公表した。そこでは「4 つの次元・31 の指標からなるダッシュボード」の全貌と、その中核的に採用された「新国富指標 (包括的な富)」「自然資本」「ウェルビーイング」について書かれている。本ビジョンでも、SDGs を記載している 13 ページあたりで紹介するといいと思う。

【浅野直人委員長】

SDGs との関係で、深堀ができる内容があるのなら、書いてもいいかもしれないが、取扱は事務局で考えてほしい。

以下3点は気になった事項である。

- ① 資料 1-1 の P10 の図を見ると色や囲みが付いてなく、入っていない地域もあるので、例えば、里山・中山間地になるのであれば、そこも色を付けるなど工夫が必要。
- ② P25 で「GX」の注釈を付けた方が良い。こうした言葉は1度だけではなく、何回かに1回は注釈を設けた方が良い。
- ③ P75 の「地域環境協議会を活用し、」は大事な部分だと思うので、もう少し深堀できないか。例えば、「地域環境協議会」がこういった構成になっているか、何の説明もない。また、どんな働きを期待するのか、を記載すべき。さらに、基礎自治体が行っていることとの関係はどうなるのか、県としてこういった整理にするのか。「地域環境協議会」があるから、基礎自治体は何もやらなくていいとならないように、工夫するべきではないか。市町村の働きを県がサポートし、市町村同士が連携・活動し、両方しっかりつなげるための協議会というのがビジョンの考え方としては、望ましいやり方だと思う。一方で、従来の地域割りではなく、今回の地域特性で分けた地域割りは、いい発想なので、この新しい発想を協議会の方でも活かしていかないといけない。地球温暖化対策実行計画は従来の地域割りで策定することになるので、両課で話し合ってほしい。

【事務局】

「地域環境協議会」については、もう少し丁寧に説明をしたい。

【脱炭素社会推進課】

地球温暖化対策実行計画では、従来通りの地域割りではあるが、ビジョンで示した地域が、例えば筑後地域だとどういう地域が中山間地域とかにあたるのか等を表をつけて関係性を示す形で考えている。

【伊藤洋委員】

資料 1-1 の P22 で「あらゆる産業を環境に関連する産業へと発展させ、」とあるが、「環境に関連する産業」が分かりづらいので、P25 の「環境に関連する産業」の注釈を P22 でも入れた方がよい。

P39（P67 も同様）の「渋滞対策」について、意味が広すぎて分かりづらい。「渋滞対策」には、シミュレーションして、渋滞を回避させることや道路を広げることといった色々な要素があり、道路照明の LED 化等と比べると具体性に欠ける。具体的に書けるのであれば、書いた方がよい。

P66 の「学校における公害対策」が分かりづらいので、公害の内容が騒音等と書けるのであれば、書いた方が分かりやすい。

【脱炭素社会推進課】

「渋滞対策」については、「福岡県道路脱炭素化推進計画」を踏まえて、環境政策課と協議し、具体的に記載していきたい。

【浅野直人委員長】

「渋滞対策」については、もう少し具体的に記載することが望まれる。

また、「学校における公害対策」については、騒音だけが問題なら「騒音対策」でもいいかもしれない。書き方を工夫できないか。

【酒井美和子委員】

資料 1-1 の P17 の柱 7「国際環境協力」における、サブタイトルと目指す姿について、サブタイトルでは「環境技術」と「相互協力」が並立になっていて、目指す姿では、「環境技術・ノウハウ等を活用し、互恵的な協力関係を築きながら」とあるので、「環境技術等の相互協力による」とサブタイトルを修正したらいいのではないかと。長さの問題があると思うが、変えた方が示したいことが言えるのではないかと。

P4 の「太陽光パネル・使用済み EV バッテリーの廃棄問題と資源循環」において、「我が国の再生可能エネルギーの導入状況は、」「再生可能エネルギーの導入は」と「～は」が続くので、「我が国の再生可能エネルギーの導入状況については、」「再生可能エネルギーの導入が」に修正したほうがよい。

【浅野直人委員長】

柱 7 のサブタイトルについては、「環境技術や」で問題はないと思うが、気になるのであれば、「環境技術活用や」や「環境技術・相互協力による」と修正してはどうか。検討してほしい。

【佐藤しのぶ委員】

資料 1-1 の P33 の IPCC の注釈が英語のみになっているので、日本語の説明があれば分かりやすくなる。

P64 の「大気汚染予測システム（Fcast）」について紹介があるが、可能であれば注釈等に HP もしくは二次元コードがあるとすぐに見ることができるのでよいのではないかと。P67 についても Fcast による情報を県ホームページで発信とあるので、同じアドレスになるかもしれないが、P64 と同様の修正ができればよい。

【浅野直人委員長】

二次元コードの活用はあまり考えていなかったのか。

【事務局】

環境白書では、二次元コードを使って紹介をしているが、ビジョンについても追加したい。

【酒井かおり委員】

資料 1-1 の P10 は P9 の説明を示す図として記載されていると思うが、例えば、P9 の③は「沿岸地域・島しょ部」となっているが、P10 では海だけを指している状況なので、沿岸地域ということであれば、海に面しているところに色をつける、また島についても色を付けることで P9 を説明する図になるのではないかな。

P22 の「環境に関連する産業」が曖昧で、伊藤委員の御指摘通り、P25 の注釈を P22 に入れるのはいい案だと思う。恐らく「関連する」に「環境配慮」が含まれているのではと思う一方、表現が難しく、気になったところ。

P67 の「花による美しいまちづくり」の部分で、もし伝えたい内容が変わらなければ、「花と緑」という表現にしてはどうか。緑を併用することで長い期間美しい景観を維持できることから、問題がなければ緑を入れるのはどうか。

【浅野直人委員長】

「環境に関連する産業」が悩ましいところだが、これ以上変えると收拾がつかない。

「花による美しいまちづくり」については、担当課（都市計画課）と相談してほしい。

(2) 指標について

【事務局】

資料 2-1、2-2 をもとに概要説明

【伊藤洋委員】

資料 2-2 の設問 3 「省エネ性能の高い家電への買い替え」と設問 5 「ものを長く使う」は矛盾している。買い替えは、経済状況もあるから買い替えてとは言い難い。また、ごみの分別とかグレードが違うから、他の選択肢と点数の重みを変えるとか考えた方がよいと思われるが、ただ、すでにアンケートを実施しているので、変えようがない。

【佐藤しのぶ委員】

資料 2-2 に関して、こどもがいれば、設問 8 「自然公園に行って生物と触れ合う」、設問 9 「地産地消を意識した農産物の購入」の回答が増えると思うので、アンケートを答えた対象によっては、これらの間も回答が増えるのではないかな。

【酒井かおり委員】

資料 2-2 に関して、設問への答えについて、ハードルが高いもの低いものがあるのは興味深いと思った。

【浅野直人委員長】

資料 2-1 の指標全体に関して、比較的安定して数字が取れそうなものが並んでいるので、いいのではないかな。ただ、新幹線の騒音の環境基準達成率は低い。山陽新幹線・九州新幹線どちらも拾っているのか。

【水・大気環境課】

両方含まれている。現行計画策定時はコロナ禍だったため、達成率が高かったが、現在では乗客数や本数が増えて、達成率が悪くなっている傾向にある。JR によると車輪の偏摩耗対策を行うことで、もう少し改善されるのではないか、ということだった。

(3) 環境総合ビジョン策定に係るスケジュールについて

【事務局】

資料3をもとに概要説明

【浅野直人委員長】

骨子案を議会に示すのはいつになるのか。素案ではなく、骨子案を出すのか。

【事務局】

2月の議会で上程という形でお示しし、骨子案を出す。

【浅野直人委員長】

次回は1月の上旬に専門委員会を開いて、パブコメ後の最新案を示す。11月の上旬に環境審議会を開くことになるが、そこで中間報告を行う。今日いただいたご意見に基づく手直し、そのほか気づいたところの手直しは、私に一任していただけるか。

【各委員】

一同了解

3. 閉会